

平成 31 年 2 月 1 日

## 継続的改善のための IR/IE セミナー2019 について（第 2 報）

大学評価コンソーシアム  
国立大学法人九州工業大学

### 1. はじめに

継続的改善のための IR/IE セミナーを昨年に引き続き九州工業大学（北九州市）で開催いたします。今回のセミナーでは、IR 実務担当者セッションを 4 つ、国立大学法人評価のセッションを 1 つの計 5 セッションで構成しており、より実務的な内容となっています。

IR 実務担当者セッションは、いつもどおりに事例を提供いただき、参加者全員で質疑応答や討論を行います。国立大学法人評価セッションは、平成 32 年度の提出予定の国立大学法人評価に関する情報交換、情報共有のセッションです。今回は試行的な設置となり、国立大学の方向けとなっておりますが、今後、公立大学、私立大学の方も含めた機関別認証評価のセッション等の開催も準備しております。

※セッション 1～4 のプログラムを掲載しました。

### 2. 日時・会場

平成 31 年 3 月 8 日（金）10：00～16：00

九州工業大学 戸畑キャンパス

（北九州市戸畑区仙水町 1-1）

### 3. 実施するセッション

スケジュール・会場

セッション	会場	時間
[セッション 1・3] IR 実務担当者セッション 1・3	イノベーション推進機構 3階セミナー室	1) 10：00～12：30 3) 13：30～16：00
[セッション 2・4] IR 実務担当者セッション 2・4	MILAiS 南側講義室	2) 10：00～12：30 4) 13：30～16：00
[セッション 5] 国立大学法人評価情報交換セッション	インタラクティブ教育棟 インタラクティブ学習室	10：00～16：00

[セッション1～4] IR実務担当者セッション [定員：それぞれ30名程度]

セッション1		セッション2	
午前（進行：小湊卓夫）		午前（進行：山本幸一）	
10:00	趣旨説明		10:00
10:05- 10:25	科研費データを元にしたネットワーク解析による研究者の可視化 中田秀典（宮崎大学）	アセスメント・ポリシーを運用している大学への訪問調査結果について（中間報告） 橋本智也（四天王寺大）	10:05- 10:20
10:27- 10:57	佐賀大学版IRの高度化に向けた取組 末次剛健志（佐賀大学）	習熟度別クラス編成における成績評価の分析 西出崇（京都外国語大学）	10:22- 10:52
10:59- 11:19	データマネジメントとIRデータ統合化の状況 丸山研二（久留米工業大学）	学生の語彙力をどう測るか 白石哲也（山形大学）、浅野茂（山形大学）、鈴木達哉（山形大学）、藤原宏司（山形大学）	10:54- 11:14
11:19- 11:30	質問感想票記入		11:14- 11:25
11:30- 12:30	質疑応答・総合討論		11:25- 12:30
セッション3		セッション4	
午後（進行：小湊卓夫）		午後（進行：山本幸一）	
13:30	趣旨説明		13:30
13:35- 13:55	THE世界大学ランキング日本版の分析に基づく自己点検・評価の試み 高橋望（琉球大学）	教育効果の可視化とGPAについて 藤原宏司（山形大学）、浅野茂（山形大学）、岡部康成（帯広畜産大学）、白石哲也（山形大学）、田中秀典（宮崎大学）、山本幸一（明治大学）	13:35- 14:05
13:57- 14:17	IR部署における業務内容の効率的な共有の仕組みについて 鈴木達哉（山形大）	データ整形・加工ツール「Tableau Prep」の利活用について 相生芳晴（学校法人上智学院）	14:07- 14:37
14:19- 14:34	IR研修講師としての実践報告—どの層のIR担当者にどんな研修内容が響くのか— 上島洋佑（愛媛大学）		
14:34- 14:50	質問感想票記入		14:37- 14:50
14:50- 16:00	質疑応答・総合討論		14:50- 16:00

※報告概要は別紙をご覧ください。

- ・ 午前（10-12 半）、午後（13 半～16）で合計 4 つのセッションがあります。
- ・ 1 セッション（2.5 h）あたり 2～3 事例+質疑応答・総合討論という構成です。
- ・ これまで通り、質問感想票を用いた全員への回答という形で進めます。
- ・ 資料は web サイトで配布します。3 月 6 日（水）15 時を予定しています。

スタッフ：

○小湊卓夫（九州大）、○山本幸一（明治大）、末次剛健志（佐賀大）、藤原将人（立命館大）、橋本智也（四天王寺大）、山本鉦（九州工大）、荒木智也（淑徳大）、岡部康成（帯広畜産大）、田中秀典（宮崎大）、上畠洋佑（愛媛大）、齋藤渉（東北学院大）

[セッション 5] 国立大学法人評価情報交換セッション [定員：概ね 20 名程度]

スタッフ：○大野賢一（鳥取大）、浅野茂（山形大）、鳶田敏行（茨城大）、末次剛健志（佐賀大）、関隆宏（新潟大）、土橋慶章（神戸大）、藤井都百（九州大）

対象：国立大学法人評価の担当者もしくは担当予定者（大学改革支援・学位授与機構等、評価実施サイドの方のオブザーバー参加は受け付けますが、ここで知り得た内容については評価制度の工夫や実施準備にのみご利用ください。）

- ・ 国立大学法人評価の中間評価提出（H32.6）に向け、各国立大学の評価作業も本格化し始めているところかと思えます。
- ・ そこで、各大学における準備状況の事例報告を行い、その後、グループでの情報交換を実施し、「ここに出席すれば、最大 20 大学程度の準備状況を知ることができる」という場として設定します。
- ・ 前半は、ロの字型に机を組んで状況を報告いただき、後半は、4 人班で情報交換を行うが、途中で数回メンバーの入れ替えを行う。
- ・ 申し込みの状況によっては、人数を増やす場合、1 大学あたりの参加者について調整をお願いする場合があります。
- ・ 想定するタイムテーブル

10：00－10：10 趣旨説明

10：10－12：10 現状報告 5 分×20 大学（大学数が少なければ持ち時間は調整）

- ・ 予定している実施体制、スケジュール、準備状況、課題などについて可能な範囲で A4・1 枚程度の資料にまとめ持参いただく。（公表できる範囲でよい。検討中の部分はすべて口頭でかまいません。また、かなり準備が遅れているなど「話す内容があまりない」という場合でも参加いただけます。
- ・ 質疑応答が自然に出る状況なら、全体での意見交換を行い、その場合、12:30 程度まで延長します。

13：30－14：30 グループでの情報交換（セット 1）[4 名×5 班]

14：45－15：45 グループでの情報交換（セット 2）[4 名×5 班]

15：45－16：00 まとめ兼バッファ

- ・ 60 分×2 セットですが、午前中にある程度議論が進みそうな場合、45 分×3 セットにするかもしれません。

- ・原則的にはスタッフが司会役となり、参加者の方々が情報交換を十分にできるよう配慮する予定です。
- ・班分けについては、ご要望は受け付けますが、その通りに班が組めない可能性も（かなり）ありますのであらかじめご了承ください。
- ・持参する資料の印刷枚数確定のために事前に参加者名簿は配布します（所属、職位、氏名のみ）。名刺は、多めにご持参ください。

#### 4. 受付

- ・2月4日（月）13時から申し込み開始。
- ・申し込みは大学評価コンソーシアム web サイトです。

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=member>

- ・資料のご案内等をメーリングリストを用いて行ないますので、参加申し込みの際には、会員登録（無料）をお願いします。

※Office365のFormを用いる場合にも、ログイン後のページからご案内します。

- ・資料アップは3月6日（水）15時を予定しています。

#### 5. 問い合わせ先

運用スタッフ用メーリングリストをお願いします。

[acc2018@ml.ibaraki.ac.jp](mailto:acc2018@ml.ibaraki.ac.jp)

以下の、問い合わせ先でも対応可能です。

[内容に関すること]

茨城大学 全学教育機構 畷田 敏行

[toshiyuki.shimada.ir@vc.ibaraki.ac.jp](mailto:toshiyuki.shimada.ir@vc.ibaraki.ac.jp)

電話：029-228-8530

[会場に関すること]

九州工業大学 インスティテューショナル・リサーチ室 山本 鉦

[yamamoto-k@office.kyutech.ac.jp](mailto:yamamoto-k@office.kyutech.ac.jp)

電話：093-884-3516

## 謝 辞

継続的改善のための IR/IE セミナーの開催にあたり、以下の経費も利用しております。なお、一部スタッフについては、所属校の経費で参加しております。記して謝意を述べさせていただきます。

- 平成27年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究  
（B）「大学の評価・IR機能の高度化のための実践知の収集・分析  
とその活用に関する研究」（課題番号：15H03469、研究代表者：  
畠田敏行）
- 平成29年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究  
（C）「IRを活かす学内データ管理に関する研究：統合型データベ  
ース構築への第一歩として」（課題番号：17K04603、研究代表者：藤  
原宏司）
- 平成30年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究  
（C）「大学の数量的な「共通知」から分析マインドを涵養する人材  
育成プラットフォームの開発」（課題番号：18K02706、研究代表  
者：大野賢一）
- 平成30年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究  
（C）「教学マネジメントを支援する大学の専門的職員のあり方に関  
する研究」（課題番号：18K02729、研究代表者：小湊卓夫）



別紙：

<午前>

#### セッション1

「科研費データを元にしたネットワーク解析による研究者の可視化」

田中 秀典（宮崎大学 IR 推進センター）

概要：本報告では、いわゆる科研費に採択された代表研究者と研究分担者情報に注目し、ネットワーク解析を行うことで研究者同士の関係性を可視化する取り組みについて紹介する。可視化することにより、研究戦略を考える上で当該分野の中心となっている研究者の探し出しや、自学の教員のコミュニティ内での立ち位置などを推察することができた。また、将来的に、研究者のアクティビティを測る指標としても活用できる可能性も考えられた。しかし、非常に初期の取り組みであることから、会場からご意見をいただき、方向性や妥当性等について議論させていただきたい。

「佐賀大学版 I R の高度化に向けた取組」

末次 剛健志（佐賀大学総務部企画評価課専門職（I R 担当）、I R 室副室長）

概要：これまで佐賀大学では、I R を「大学改革のツール」と位置づけて活動を展開してきた。本報告では主に、第3期中期目標期間（平成28年度～）以降、「I R の高度化」を掲げて推進してきた次の取組事例を紹介する。さらに本内容を踏まえた意見交換を通して、I R の更なる可能性の認識を深めたい。

- ①「計画達成」と「評価」の一体的支援、②内部統制の支援（アドホック対応→モニタリング）、③資源の最適化配分の支援 など

「データマネジメントと IR データ統合化の状況」

丸山 研二（久留米工業大学 IR 推進センター）

概要：IR 部門の責務は大学が持つ多様なデータを分析し価値を与えることである。その役割のひとつにデータマネジメントがある。データマネジメントとは、データ資産を獲得し、保持し、活用する一連の活動である。本報告では、データマネジメント、およびその具現化である IR データ統合化という観点から各大学の IR 部門の状況を概観する。大学の価値向上に貢献する IR 部門となるための方向性を示す。

#### セッション2

「アセスメント・ポリシーを運用している大学への訪問調査結果について（中間報告）」

橋本 智也（四天王寺大学 IR・戦略統合センター／教育学部）

概要：各大学は自らが設定した3つのポリシーに基づいた教育を展開させていくことが求められるとともに、その教育による学修成果について、大学自らが定めた質的水準や具体的な実施方法等の方針である「アセスメント・ポリシー」に基づいて評価し、改善させていくことも重要とさ

れている。本発表では、現時点でアセスメント・ポリシーを策定、運用している大学を訪問調査した結果を報告する。参加者の方々と、アセスメント・ポリシーを機能させるための促進要因、阻害要因などについて検討を行いたい。

#### 「習熟度別クラス編成における成績評価の分析」

西出 崇（京都外国語大学総合企画室 IR 推進グループ）

概要：外国語教育科目で一般的に採用されている習熟度別クラス編成において、クラスのレベルと成績評価は重要な問題である。クラスの習熟度によって授業内容や到達水準などは異なるが、成績評価を各クラスの担当教員が個別に行うと、同一科目の成績でもレベルによって不均衡が生じる場合がある。本報告では、この問題について成績分布の状況や語学検定試験のスコアなど外在的な到達度の基準との関係から、習熟度別クラス編成と成績評価の問題について検討する。

#### 「学生の語彙力をどう測るか」

白石 哲也（山形大学 学術研究院）

浅野 茂（山形大学 学術研究院）

鈴木 達哉（山形大学 次世代形成・評価開発機構）

藤原 宏司（山形大学 学術研究院）

概要：本報告では、山形大学が採択されている AP 事業（テーマV）の一環として実施している基盤力テストの試みについて、その一部を紹介する。基盤力テストでは、様々な分野での学生の学習達成度を直接評価し、教育の効果を検証すること目的として開発している。その中に、今回報告対象とした「語彙力」も含まれる。ここでは、「語彙力」を測定するための開発及び検証結果について報告を行うことで、会場からのご意見等を頂き、より良いものとしたいと考えている。

<午後>

#### セッション3

#### 「THE 世界大学ランキング日本版の分析に基づく自己点検・評価の試み」

高橋 望（琉球大学大学評価 IR マネジメントセンター）

概要：近年、大学ランキングへの注目が集まってきており、ランキング結果をどのようにして分析し、自大学の自己点検・評価に活用するかについては多くの大学で検討がなされている。本発表では、琉球大学における THE 世界大学ランキング日本版 2018 を活用した自己点検・評価の試みを紹介し、よりよい活用に向けて議論する。

#### 「IR 部署における業務内容の効率的な共有の仕組みについて」

鈴木 達哉（山形大学次世代形成・評価開発機構 IR 部門（OIRE））

概要：発表者が所属（兼務）する次世代形成・評価開発機構 IR 部門（OIRE）は、複数の部署に所属する教職員で構成されている。そのため、個々人が日常業務と併せて IR 業務を担っており、それぞれの業務内容を共有することが困難であった。そこで、発表者は、ICT を活用して業務内容

を効率的に共有できるシステムを構築した。本報告では、実際のデモンストレーションを交えながら、システムを紹介し、今後の活用方法などについて話題提供したい。

「IR 研修講師としての実践報告—どの層の IR 担当者にどんな研修内容が響くのか—」

上島 洋佑（愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室）

概要：我が国の IR は「導入」の段階から、如何に IR 実務担当者並びに IR 実務候補者を学内外の研修等の機会を用いて「育成」するのかという段階へと移行してきている。本報告では、愛媛大学において本報告者が IR 研修講師を担った経験を振り返りながら、現在大学の現場で求められている IR 研修のより良いあり方について提案し、参会者とインタラクティブな意見交換を行いたい。

#### セッション 4

「教育効果の可視化と GPA について」

藤原 宏司（山形大学 学術研究院）

浅野 茂（山形大学 学術研究院）

岡部 康成（帯広畜産大学 人間科学研究部門）

白石 哲也（山形大学 学術研究院）

田中 秀典（宮崎大学 IR 推進センター）

山本 幸一（明治大学 教学企画部 教学企画事務室）

概要：近年、日本において GPA の活用方法に関する活発な議論が行われている。本発表は、全米学習成果アセスメント研究所（National Institute for Learning Outcomes Assessment, NILOA）への訪問調査や、同研究所が共催するアセスメント関連学会（Assessment Institute）における GPA 関連の話題を紹介する。そのうえで、日本の大学に適用できる、GPA の効果的な活用方法等について、参加者の皆さんと検討したい。

「データ整形・加工ツール「Tableau Prep」の利活用について」

相生 芳晴（学校法人上智学院 IR 推進室）

概要：『データ分析に費やす時間の約 8 割は、データの下準備にかかる時間である』という状況は、数多くの大学 IR の現場にも当てはまるであろう。

そうした前工程の負荷を軽減すべく、本報告では、データ整形・加工ツール「Tableau Prep」を使った整備作業の効率化・自動化について触れるとともに、新データエンジン「Hyper」の威力や、大学の現場での活用事例について紹介する。